新品種・新技術の確立
支援事業　取組概要
（R2～R3）

『挿し芽苗を用いたホオズキ生産体系の確立・普及』

＝福岡県＝

【全体概要】
ホオズキは、お盆に不可欠な商材であり需要は高いものの、産地の高齢化、白絹病の発生等により生産は不安定である。慣行の地下茎を用いた栽培では、地下茎を選別しても白絹病を保菌している場合があり、本圃で白絹病が蔓延する場合も多い。そこで、無菌の新梢を挿し芽して育苗後に定植することで、白絹病の発生を低減できる新しいホオズキ生産体系を確立し、生産振興を図る。

新品種・新技術等の概要

○挿し芽苗を用いたホオズキ生産体系
飯塚普及センター管内において、地上部に発生してきた新梢を防除後に採穂し無菌用土に挿し芽を実施。得られた発根苗を定植して栽培することで良好な切り花長と品質を確保したホオズキを収穫できることを明らかにした（R元年）。

○県内7ヵ所での栽培実証試験
県内1カ所において育苗試験 及び6ヵ所で慣行（地下茎）と試験区（挿し芽苗）を用いた栽培実証試験を実施し、切り花形質等を調査。試験地6ヵ所の内 4ヵ所で白絹病が発生。いづれの試験地においても、白絹病の発生割合は地下茎(慣行)区に比べ、挿し芽苗区で大きく低減できることが明らかになった。

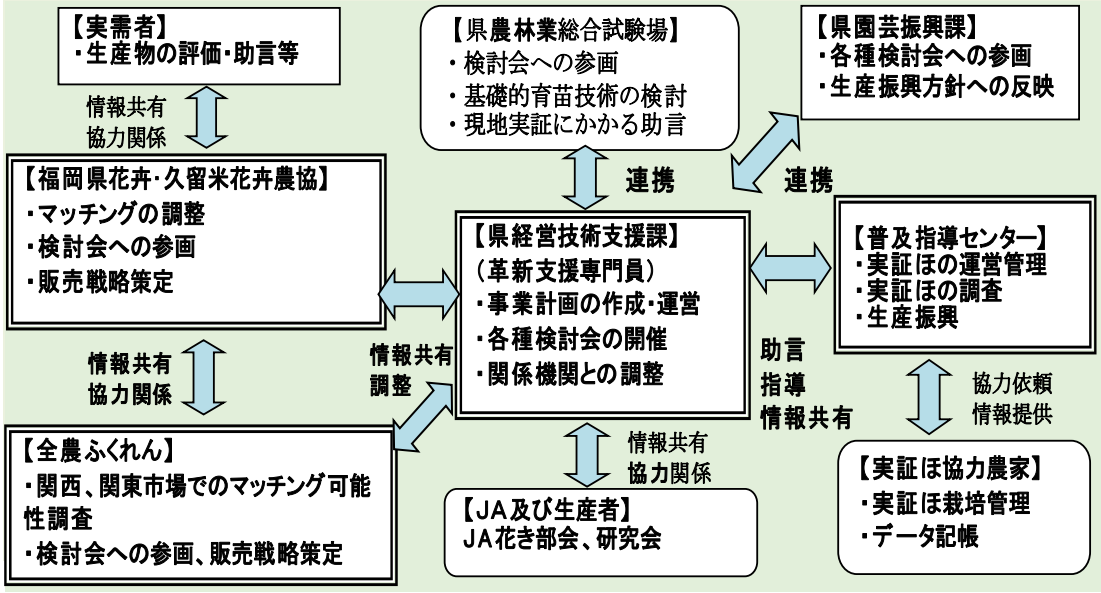
挿し芽を用いた生産体系

主な取組内容

※R3実績

【実証ほ設置】（7普及センター、7ほ場）
【事業検討会・設計・成績検討会】（6月、9月）
実証ほの設計、成績を検討。
【プロジェクト会議、現地検討会】（6月～7月、2回）
実証ほ場の試験推進状況の確認および現地検討会を開催。
【実需者との意見交換会】（9月、1回）
福岡県花卉農協（福岡花市場）、久留米花卉園芸農協（久留米花市場）、仲卸、JA全農ふくれんとの意見交換会をリモートにて実施。

実施体制図



課題と今後の対応

【今後の課題】
・本実証試験の結果、挿し芽苗を用いた生産体系は、施設栽培での適応性が高く、安定生産のためには施設栽培での普及拡大が有効。
・冬春期の施設野菜とホオズキとの組合せ体系を検討。

【今後の生産振興】
・施設栽培における普及拡大に向け、継続的な実証試験を実施。
・施設栽培における品質向上技術を確立し、普及拡大を図る。